

26年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 41.7	△ 25.0	△ 29.2
	マツ	△ 41.7	△ 29.2	△ 33.3
	広葉樹	△ 28.6	△ 21.4	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 15.0	△ 15.0
	マツ	△ 18.2	△ 9.1	△ 9.1
	広葉樹	△ 25.0	△ 4.2	△ 4.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 62.5	△ 27.3	△ 22.7
	マツ	△ 50.0	△ 40.9	△ 36.4
	広葉樹	△ 39.3	△ 25.0	△ 25.0

・チップ用国産原木の入荷は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少。
・スギ、ヒノキ原木の消費は、9月の横ばいが10月、11月には減少に、マツ及び広葉樹は3ヶ月連続で減少に。
・在庫は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ	29.2	20.8	20.8
マツ類	16.7	8.3	8.3
広葉樹	11.5	3.8	3.8

・チップ用国産原木価格は、いずれの品目も強保合ないしやや強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・バイオ燃料が活発なため入荷が少ないか？入荷少なく在庫の減少が大きすぎる。
- ・一般材、国有林材の入荷減少。消費は減少。在庫の減少進む。
- ・広葉樹は悪天候で入荷不足、天候回復で数量も回復する。針葉樹は再生事業、間伐作業の始まりで入荷増を見込む。
- ・バイオマス関係で原木入荷少なく困っている。
- ・今月も針葉樹の入りが良い、木質バイオマスの影響か。
- ・県内のバイオマス発電所が針葉樹原木の集荷を始め、材が流れている。針葉樹原木消費の増加、在庫の大きな減少。
- ・燃料用 (FIT)に流れている、間伐材は市場に出ないため入手困難。
- ・8月の天候による入荷減少が9月の仕入、出荷にも影響している。
- ・天候による林道崩壊で出材減、消費は変動なし、在庫は入荷減で減少。
- ・9月は例年並みに入荷し10月、11月は通常となる。製紙会社から針葉樹チップの増産依頼あり広葉樹を減らした。10月、11月は通常に戻すが、針葉樹は引き合い強いかも。針葉樹製紙用在庫は大きく減少、発電用は積み増し、広葉樹は8月入荷減の分が秋には増加。

(原木価格)

- ・入荷減少に伴い、仕入れ価格も少しづつ上昇。
- ・価格変わらず。
- ・製紙会社がチップの価格を500円上げたので、原木の価格も上げる予定。
- ・バイオマス用の集荷開始で価格上昇見込まれる。
- ・変動なし。
- ・原木不足、FIT用原料との競合で上昇。
- ・スギ、ヒノキは間伐材の対象丸太となり製紙用が減少している。間伐材は単価が高く平均単価は上がり気味。広葉樹は一部で燃料用として高値と聞く。
- ・バイオマス発電、輸出丸太の増で国内市場での丸太不足から価格上昇するのでは。

26年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 35.0	△ 35.0
	マツ類	△ 45.5	△ 31.8	△ 31.8
	広葉樹	△ 26.9	3.8	△ 11.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 20.8	△ 33.3	△ 33.3
	マツ類	△ 45.5	△ 40.9	△ 40.9
	広葉樹	△ 15.4	△ 7.7	△ 19.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 45.0	△ 35.0	△ 35.0
	マツ類	△ 50.0	△ 35.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 27.3	△ 18.2	△ 27.3

・スギ、ヒノキ及びマツチップの生産は、3ヶ月連続して減少傾向で推移、広葉樹は9月の減少が、10月のやや増加を経て11月には再び減少に。
 ・チップの出荷は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少傾向で推移。
 ・チップの在庫は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	26/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ類	12.5	4.2	4.2
マツ類	8.3	4.2	4.2
広葉樹	3.6	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ及びマツチップの価格は、3ヶ月連続してやや強保合で推移。
 ・広葉樹は9月のやや強保合が10月、11月は保合で推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・原木在庫の減少で生産、出荷共に減少。
- ・チップ生産は、針葉樹と広葉樹の生産量を月ごと交互にしている。
- ・針葉樹チップへの製紙会社からの増産要請強いが在庫減少で生産は対応出来ない、燃料チップは抑制基調。針葉樹チップは生産したものはすべて引き取ってもらう、チップ車が人出不足、燃料高で集まらない、原料のパルプ材が集まらず在庫減少、燃料用チップは解体材の入荷は順調で、出荷抑制されており在庫は増加。
- ・8月の入荷減が9月にも影響、10月、11月は横ばい。
- ・製紙用受け入れは横ばい、原木入荷減で生産落ち込んだ。原料不足で出荷が減少。在庫減。
- ・今月はヒノキ増産で広葉樹生産落ちた、工場はフル稼働。

(木材チップ価格)

- ・仕入れ価格の上昇で、チップ価格の値上げ望む。
- ・価格変わらず。
- ・横ばい。
- ・変動なし。
- ・ボードメーカー当月値上げ、10月、11月にて製紙会社と値上げ交渉中。
- ・スギ、ヒノキの製紙用は引き合い強く、原木価格が発電用等の間伐材に引きずられているため製紙会社も価格を上げないと集まらない。